



KG+ シシが山から下りてくる
It come down from the mountain
守屋友樹
Moriya Yuki
2018.5.4-5.20
11:00-19:00
closed on Mon. / until 20:00 on Fri.

Gallery **P A R C**
GRAND MARBLE



本展DM使用イメージ

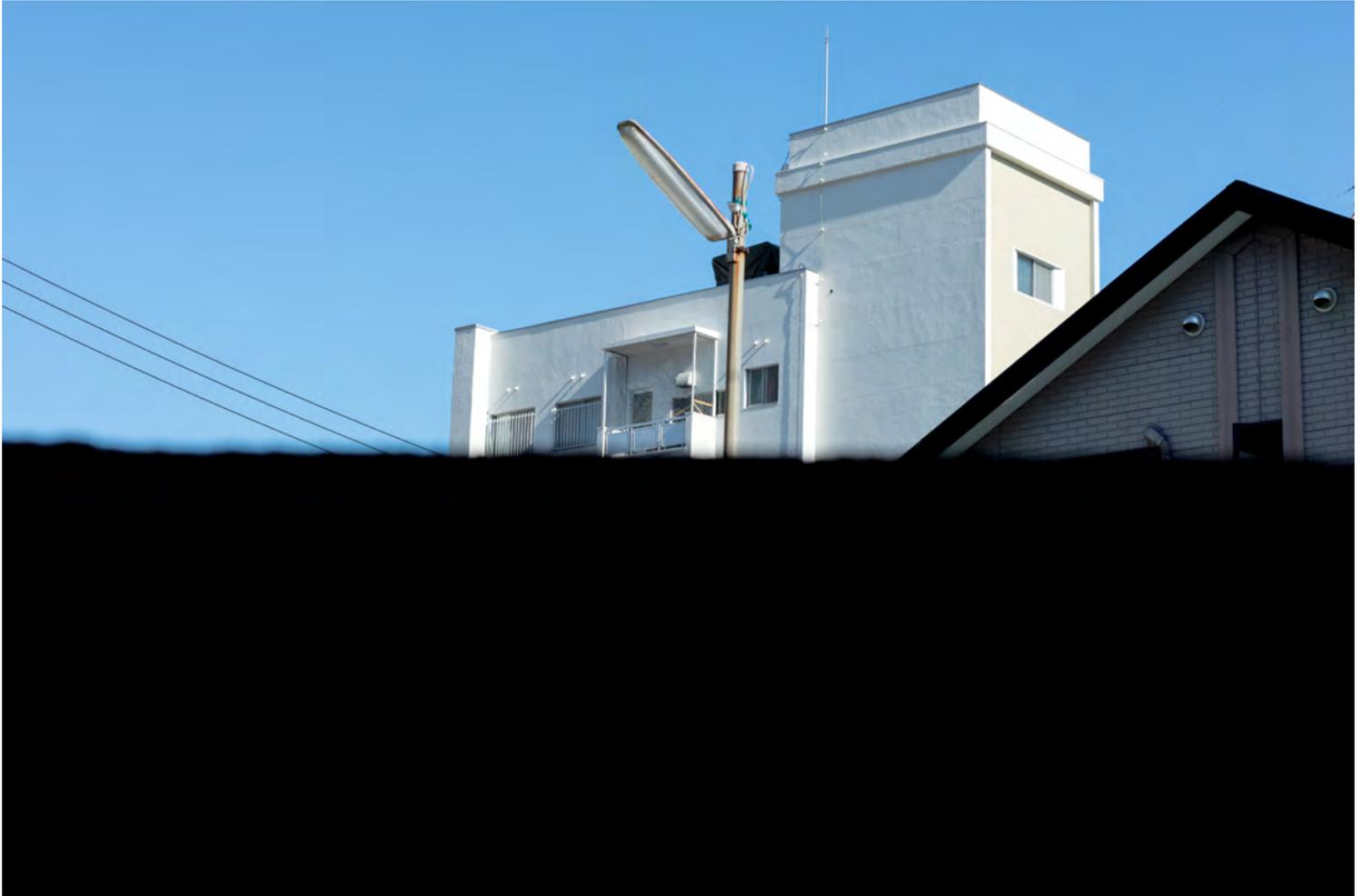
Gallery PARC[グランマブル ギャラリー・パルク]では、2018年5月4日(金)から5月20日(日)まで、守屋友樹による個展「シシが山から下りてくる:It come down from the mountain」展を開催いたします。

2010年に日本大学芸術学部写真学科古典技法コース卒業、2012年に京都造形芸術大学大学院修士課程芸術表現研究科芸術表現コースを修了した守屋友樹(もりや・ゆうき/1987年・北海道生まれ)は、2017年「still untitled & a women S」(KYOTO ART HOSTEL kumagusuku・京都)、2015年「消えた山、現れた石 _ gone the mountain/turn up the stone」(Gallery PARC・京都)などの個展に加え、多くのグループ展などによる写真・インスタレーション作品の発表。また京都を拠点に活動する演出家・和田ながら(したため)とのパフォーマンスユニット「守屋友樹と和田ながら」公演として、2016年の『石 | 溶けちゃってテレポート、固まってディレイ』(アトリエ劇研・京都)をはじめ、2017年の亀山トリエンナーレで『山と海に貼り付けた』(三重)、2018年のSICF19での『石 | 溶けちゃってテレポート、固まってディレイ』(青山スパイラル・東京)に参加するなど、写真表現を中心に積極的に活動の幅を広げています。

2017年の個展「Still Untitled / A Woman S」では、予測や研究がなされながらも、未だ噴火には至らない活火山でのフィールドワークの記録とともに、SNS上で見つけた知人のつぶやきを約一年に渡って追いかけた記録と、実際の本人とのやりとりを重ね合わせて展開。また、「未来の途中の星座・美術・工芸・デザインの新鋭9人展」(京都工芸繊維大学・京都)では、幼い頃に神戸で遭遇したイノシシの記憶を頼りに現地を取材し、現在でもイノシシが山から下りてくる場所を撮影した写真・映像で構成されました。これらは、近年の守屋のテーマである『写真における「サスペンス(未然の状態、無題の状態)』への考察を主眼に展開させられたもので、本展「シシが山から下りてくる:It come down from the mountain」は、この神戸・六甲山の麓に出没するイノシシを追ったプロジェクトをベースに、開発されて拓かれた土地を人為的自然として、「人間が主体ではない自然とは何か。それは、網目越しの彼方から突然現れるイノシシではないだろうか。」という仮説を起点に、イノシシの存在(不在)を通して「都市/自然/身体」の横断を試みるものです。

山と住宅地の境目にある場所を取材した一枚の写真。これは「かつてイノシシが下りてきた場所」であり、「いま(撮影した時には)イノシシがいない(写っていない)場所」であり、また「いつかまたイノシシが下りてくるかもしれない場所」の写真と呼ぶことができます。しかし、この写真はそのものとしてそれらをなにつ決定しない、未知・未然が維持された状態にあるとも言えます。私たちは常に未知を既知で、未然を已然でもって触れ、切り取ります。この一枚の写真は、時間・場所・歴史・経験・知識・記録・言葉など、「写真(に写るもの)の外」にいる鑑賞者との交わりによって生じる呼び名(視線)によって捉えられていると言えます。そうしていつしか無題の歌は題詠されたものとして読まれ、そこに受け取り可能な意味を固定化してしまいます。

本展において守屋は写真を過去の既知・已然に固定化したものではなく、過去と現在と未来において未だ意味の固定されることのないひとつの塊りの状態でもあることを示そうとしています。そうして写真を「サスペンス」との緊張関係に置き直すことで、写真を見る・読む行為において、私たちの内に「わからないもの」を「わかるもの」にしようとするベクトルが常に働いていることを自覚させ、展示はその気づきを促す装置として起動し、鑑賞者に働きかけるのではないのでしょうか。



本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

本展DM使用イメージ

展覧会名 **シシが山から下りてくる**
It come down from the mountain

出展作家 **守屋友樹**
Moriya Yuki

会期 **2018年5月4日[金] — 5月20日[日] 11:00~19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで**
本展は「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」のサテライトイベント「KG+」にSPECIAL EXHIBITIONとして参加しています。

料金 **無料**

内容 **写真・インスタレーション**

守屋友樹が幼い頃に神戸で遭遇したイノシシの記憶を頼りに現地を取材し、今もイノシシが山から下りてくる場所を撮影した写真・映像により構成。神戸・六甲山の麓に出没するイノシシを追ったプロジェクトをベースに、開発されて拓かれた土地を人為的自然として、「人間が主体ではない自然とは何か。それは、網目越しの彼方から突然現れるイノシシではないだろうか。」という仮説を起点に、イノシシの存在(不在)を通して「都市/自然/身体」の横断を試みる。

会場 Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F MAP

アクセス 地下鉄烏丸線「四条」駅・阪急京都線「烏丸」駅22・24番出口より徒歩7分。地下鉄烏丸線・地下鉄東西線「烏丸御池」駅より徒歩7分。
室町通・六角通 北東角 室町通側入り口より2Fへ

問い合わせ Gallery PARC (正木・村田・岡田) 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F
TEL= 075-231-0706 FAX= 075-231-0703 MAIL= info@galleryparc.com HP= www.galleryparc.com

六甲山の麓には山からイノシシが下りてくる。2016年に神戸の団地を撮る機会があり、下見を兼ねて六甲周辺を散策していると、至る所にイノシシが描かれた看板を見つけた。僕はその絵を見て数少ない神戸での記憶を思い出す。僕は、幼い頃に神戸市内で過ごした時期がある。今では当時の記憶はほとんど無く、数少ない記憶の一つにイノシシに遭遇した事がある。その情報を



思い出しただけではあるが、看板を通して今も変わらずに神戸にイノシシが出る事知った。僕にとって神戸の街並みは、山の中にすっぽりはめ込まれた街である。住宅街と言っても街の端まで行けば落石防止のネットで行き止まりとなり、橋のない溪谷で道を迂回するなど、決して都市とも田舎とも言えない場所である。それこそ、その場所は自然と人為が折り重なった場所と言えるのではないだろうか。



六甲山は、古くから森林などの伐採や燃料材の確保などを繰り返して行くうちに山は荒廃していった過去がある。荒廃の結果、土砂災害が頻発させることとなり、明治以降に土砂災害対策で植林を施すことや治山事業が活発化していく。そして、1960年以降には山中に都市を作る開発が始まり現在の街並みへと繋がる。この一連の流れは、人の調整された自然の形なのだろう。人為的自然ともいべき体ではない自然とは何だろうか。それは、網目越しの彼方から不意にやってくる。それでも閑静な住宅街は、依然として閑静



暮らしに必要とされた形で何度なのだろうか、そして、人間が主突然現れるイノシシだ。彼らは、なままだ。

ならば、人もイノシシもない写真を見た時、僕はどんな思いものは何があるのか。SNSで画像付きの投稿を見て、獣害を

をするのだろう。この場所で写る受けた地域を巡りながら写真を

撮っていく事をした。撮った写真を見返して行くうちに、極端に視線が低い写真があることに気づいた。その低さは、生き物を彷彿とさせ自身で撮った身体ではないような違和感を感じさせる。斜面を歩く時、人は顔を正面に向けることはそう容易なことではないと思う。傾斜が厳しい



ほどに空を元も見るこのか。それた視線があ手というもわせた結果もしれない。

仰いでしまうか、或いは地面を見てしまうかではないだろうか。でないと、先も足とが出来ずに躓いてしまうからだ。では、顔を水平垂直にした時のように見えるは、写真で起きたように視線が低くなる。この瞬間、僕は地形によって影響を受けることを経験した。紛れもなくシャッターを押したのは自分ではあるが、地形にものがあるとすれば、として視線の低く感と同時に「僕が見



僕に手を沿じさせるのかた」という指

標は「地形によって僕は見せられた」という指標へと変換が起きる。

ヴァルター・ヴェンヤミンの『写真小史』でこのような一節がある。「カメラに語りには眼に語りかける自然とは違う。その違いは、とりわけ、人間の意識に浸透されたり、無意識に浸透された空間が現出するところにある」。ヴェンヤミンに倣って言えば、地形が映像に影響を及ぼした結果、写真(自然と人為

かける自然空間の代わ



の視線が交錯する)として見る事が出来るのではないだろうか。

最近、知人との会話で、京都の平安神宮に現れたイノシシは二条城まで走り、外堀に飛び込み命果てたという話を聞いた。

守屋 友樹
Moriya Yuki

- 1987 北海道生まれ
2010 日本大学 芸術学部 写真学科 古典技法コース 卒業
2012 京都造形芸術大学 大学院 修士課程 芸術表現研究科 芸術表現コース修了

個展

- 2018 シシが山から下りてくる (Gallery PARC・京都)
2017 still untitled & a women S (KYOTO ART HOSTEL kumagusuku・京都)
2015 消えた山、現れた石_ gone the mountain/turn up the stone (Gallery PARC・京都)
2010 Other Eye's: kuniwataru (Gallery i・京都)
2010 untitled: tokyo (Count Down Gallery・東京)

パフォーマンスユニット「守屋友樹と和田ながら」公演

- 2018 SICF19『石 | 溶けちゃってテレポート、固まってディレイ』(青山スパイラル・東京)
2017 亀山トリエンナーレ『山と海に貼り付けた』(三重)
2016 私は春になったら、写真と劇場の未来のために山に登ることにした『石 | 溶けちゃってテレポート、固まってディレイ』(アトリエ劇研・京都)

グループ展

- 2017 ゴーストに矛と盾 (ARTZONE・京都)
-- 7th Dali International Photography Exhibition Asia photo book showcase (中国 大理市)
-- 未来の途中の星座・美術・工芸・デザインの新鋭9人展 (京都工芸繊維大学・京都)
2016 TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD_NEW VISION#3 (G/P Gallery・東京)
-- ULTRA AWARD×ANTEROOM (HOTEL ANTEROOM KYOTO・京都)
2015 ULTRA AWARD2015 POST INTERNET ART_新しいマテリアリティ、メディアリティ (京都造形芸術大学 ギャラリーオーブ・京都)
-- the catalogue: 川内倫子ワークショップ成果発表展 (京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA・京都)
-- TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD_NEW VISION#1 (G/P Gallery・東京)
2014 KUAD graduates under 30 selected (京都造形芸術大学 ギャラリーオーブ・京都)
2013 脈 vol.3: ととと (Gallery PARC・京都)
2012 大学院修了展 (京都造形芸術大学 学内・京都)
-- 脈 vol.2: ゆきてきゆ (Gallery PARC・京都)
-- Art In Art _ 二次元と三次元のはざま"ART ZONE" (京都)
2011 文化庁メディア芸術祭 京都展 パラレルワールド 京都- 私のパラレルワールド (京都)
-- photograph -アーティストの見たもの (STUDOP Y3・神戸)
-- shift (Gallery 門馬・北海道)
-- 脈 (Gallery PARC・京都)

その他

- 2016 第14回写真「1WALL」奨励賞 鷹野隆大 選

